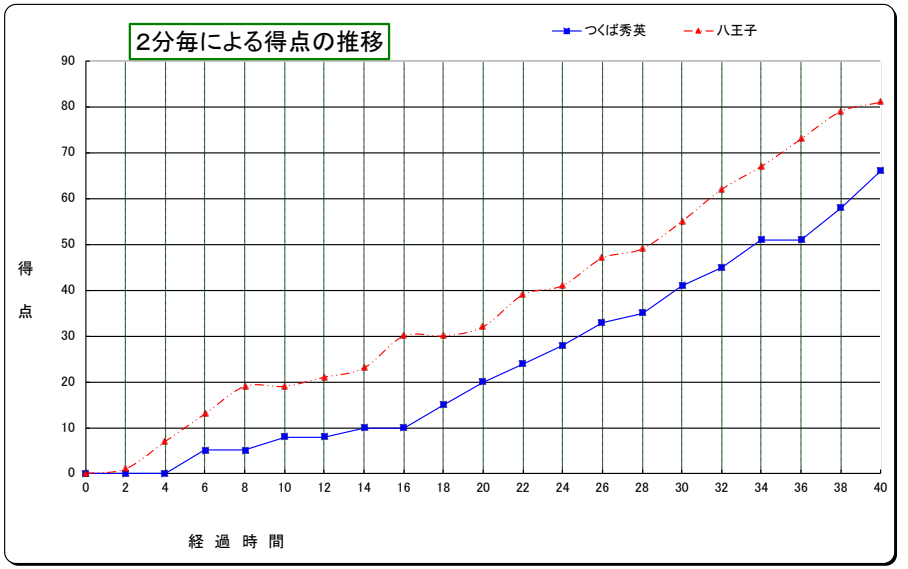
令和5年度 第34回関東高等学校
バスケットボール新人大会

令和6年2月3日（土）
深谷ビッグタートル
２回戦

チームA				チームB
つくば秀英（茨城）	66	8 / 12 / 21 / 25	1st 2nd 3rd 4th	81	八王子学園八王子（東京）	19 / 13 / 23 / 26

番号	氏名	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
4	朝日 開路	16	0	2	8	11	0	0	4	5	3	3	3	2	6
5	高野 拳太	4	0	1	2	3	0	0	3	1	1	0	3	0	0
6	ドージィー ジアニ 大雄	4	0	0	2	3	0	0	1	0	0	1	0	0	1
7	豊田 士騎	0													
8	仲 柊哉	20	5	17	1	5	3	4	2	1	10	1	1	0	4
9	杉山 康輔	5	1	11	1	2	0	0	2	1	2	0	1	1	2
10	渡部 開	7	1	2	1	9	2	3	1	3	8	0	6	1	6
11	新谷 順太郎	0													
12	浦野 広大	3	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
13	楠見 海翔	7	1	9	2	5	0	2	1	1	3	2	1	0	1
14	小野 次郎	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0
15	杉山 寛大	0													
16	飯村 海斗	0													
17	西舘 翔磨	0													
18	市川 善崇	0													
コーチ	稲葉 弘法														
		66	9	44	17	39	5	9	16	13	28	7	15	4	21
	確率		20.5%		43.6%		55.6%			計	41				

番号	氏名	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
2	岡 祐心	0													
3	齋藤 志音	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
4	平井 陽	0													
5	佐藤 大愛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
6	照井 昇太朗	3	1	6	0	3	0	0	0	0	2	2	1	0	1
7	平原 侑真	5	1	5	1	5	0	0	3	0	4	0	5	0	3
8	ンジャイ パプンデリ	29	0	0	14	23	1	2	1	9	12	0	2	0	3
11	花島 大良	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
12	十返 翔里	30	0	7	11	20	8	9	2	1	6	2	1	0	1
13	畠山 颯大	2	0	2	1	4	0	0	1	1	4	2	2	1	6
14	堀澤 希望	10	0	0	4	9	2	3	1	4	10	1	0	0	3
16	小清水 寛太	0													
17	内田 龍志	0													
18	宮川 新	0													
19	新道 滉雅	0													
コーチ	伊東 純希														
		81	2	20	32	66	11	14	10	15	38	7	13	1	17
	確率		10.0%		48.5%		78.6%			計	53				



戦評

第1Q、両チームマンツーマンでスタート。秀英はインサイドにボールを集め、アウトサイド中心に攻撃を展開。対する八王子は＃12のドライブを中心に果敢にペイントアタックする。開始3分、秀英＃14が2ファウルで交代。八王子は＃8にボールを集め、ゴール下のシュートをねじ込む。3−13と八王子が10点リードしたところで秀英タイムアウト。秀英はコーナーからの3Pをノーマークの形で作るものの決めきることができない。対して八王子はディフェンスリバウンドを確実にものにし、＃8の強力なインサイドで確実に得点を重ね、反撃の糸口を与えない。8−19八王子リードで第1Q終了。

第2Q、はじめ八王子は＃12の連続得点でリズムを掴み、10−25とリードを広げる。秀英はタイムアウト後、八王子＃6の3Pもあり、一時20点のリードを許すが＃14がコートに戻ると徐々にリズムを取り戻す。しばし、ノーゴールの時間が続いたが、＃4の気迫あるリバウンドと豪快なブロックショットから＃8が連続3Pを沈め、一気に点差を縮める。対する八王子も秀英の勢いからリズムに乗れない状況が続く。残り1分15秒、18−30で八王子がタイムアウト。互いに一歩も譲らない展開が続き、20−32八王子リードで第2Q終了。

第3Q、八王子はインサイドでのスクリーンプレーを中心に徹底してペイント内を攻め続け、＃8、＃12が確実に得点する。対する秀英は＃4が怪我で一時交代するが、代わって入った＃6がゴール下で躍動し、強固なディフェンスから＃8がオフェンスファウルをもらい、徹底したインサイドの守りでチームも奮起する。秀英も＃12、＃10の3Pで追撃するが、八王子＃14のオフェンスリバウンドでチャンスを作り、ゴール下での強さを見せつける。残り24秒、代わって入った秀英＃13が終了間際に3Pを決めきり、チームに勢いをつける。41−55八王子リードで第3Q終了。

第4Q、秀英は3Qの勢いそのまま、＃8を起点として確実に2点を重ねる。対する八王子はインサイドで＃14、＃8がバスケットカウントを獲得し、徐々に点差をつける。秀英はディフエンスで善戦していたが八王子の高さに圧倒されはじめるが、秀英＃10のバスケットカウントで反撃する。＃4もゴール下でタフショットを決めきるなど強さを見せ、最後まで食らいつく。しかし、八王子＃8の29得点、＃12の30得点の活躍もあり、66−81で八王子がベスト4進出を決めた。

b

文責：土屋 謙太

Ref	小澤 勤

1st U	山岸 大輔

2nd U	堀口 拳